

新聞に親しみを持ち、興味・関心を持って主体的に活用していく子に育てるためのNIE活動はどうあったらよいか。

長野県茅野市立玉川小学校教諭（代表） 平 林 正 也

1. 実践の概要

(1)本年度研究の方向

NIE実践校の指定2年目にあたる本年度。昨年度の成果と課題から研究の方向を決めていった。

昨年度実践の成果としては、新聞を読む日数や時間が実践開始前より増え、読む記事のジャンルの広がりが見られた。これは、教室に新聞が届けられ日常的に読める環境が整ったことにより、新聞と子ども達との距離が縮まったこと。新聞記事のスクラップ活動によって「欲しい記事を仲間と探す」ことや「仲間の集めた記事に対する興味」などの楽しみが生まれてきたことによるものと考えられる。

しかし、課題として「探している内容にぴったりとくる新聞記事が見つからなかった」こと、見つかったとしても「新聞記事に出てくる漢字や語句に抵抗があった」ことが感想にあり、子どもが新聞を活用したい意欲が空回りする場面も多かったので、「もっと柔軟に活用の仕方を子ども達に考えさせてもいいのではないか」という点が挙げられる。1年次は「まず、新聞が読めるように」と教師側が教えることも多かったので、やや新聞活用の意欲に欠けてしまった子どももいたと反省する。

そこで、本年度研究テーマは昨年と同じにして、より子ども達が新聞を主体的に活用していく場面に重点を置き、情報選択・情報活用能力の育ちの中でNIE活動がどのように有効に働くのかを実践を通し考えていきたい。

(2)目 標

①新聞に触れる・新聞に親しむ子ども。

- ・自宅や教室で、進んで新聞を見たり、読んだりする。
- ・学校に掲示されている新聞スクラップ記事に目を通す。

②新聞を活用する子ども。

- ・現在自分が興味を持っている事象の記事を、新聞の中から探すことができる。
- ・探した記事を、自分の意図に沿って情報として活かし、まとめることができる。
- ・記事に書かれていることに対して、自分の意見を持つことができる。
- ・仲間に自分の意見を発信することができる。

(3)研究の仮説

①新聞を利用しやすい環境を整えたり、掲示板に新聞の切り抜きを張り出したりすることによって、児童は新聞への興味や関心が高まってくるだろう。

さらに、次の段階として・・・

②課題意識を持ち、取り組んだ問題に対しての解決の糸口が、新聞記事にあることがわかったときには、児童は主体的な新聞活用をしていくだろう。

(4)研究の内容

①新聞を利用しやすい環境・新聞切り抜きの掲示方法の工夫

- ・新聞閲覧コーナーの設置
- ・バックナンバーの保存
- ・N I Eコーナーの設置
- ・新聞スクラップ活動

②新聞の活用を目指した学習の設定

- ・新聞記事や写真を、教科学習での教材や資料とする。
- ・学級中核活動（学校裁量の時間等）で、新聞が利用できる場面を取り入れる。
- ・学習のまとめとして、新聞づくりを行なう。

2. 新聞の配置と整理の方法

(1)新聞の配置

- ①5年、6年それぞれの学年に、新聞閲覧コーナーを廊下に設置した。いつでも必要などに利用できるようにし、他学年の児童も閲覧してよいことにした。
- ②新聞購読方法は、購読できる8社すべての新聞を指定した。そのうち、4社の新聞を一部ずつ、1カ月ごと交互に購読した。また、全紙が一堂に見られる月間を11月に設定して、幅広い学習ができるように配慮した。

(2)新聞の整理方法

- ①テーマを設けてスクラップしていたクラスへ記事を提供。
- ②残りは、月毎に綴って新聞閲覧コーナーに置くことにする。

3. 実践の内容

(1)新聞を利用しやすい環境・新聞切り抜きの掲示方法の工夫

①新聞閲覧コーナーの設置、バックナンバーの保存

- ・大きな机を用意して、新聞を広げやすいように、そして何人かで読むことが出来るようにした。同じを紙面を読むことから、会話が始まることを期待した。新聞閲覧コーナーには、看板を作って、気軽に立ち寄りやすくした。
- ・以前の記事も探しやすくするため、月毎に紐で綴じて、新聞閲覧コーナーに常置しすることにした。調べ学習の際には、情報提供スペースとしての利用ができた。

②N I Eコーナーの設置

- ・昨年度と同様に、児童昇降口を入ったところに掲示板を設置した。そこには、玉川小学校に関係する記事を切り抜いてはった。（職員・記録係の活動）
また、児童会の広報委員会では、新聞の切り抜きを使い、自分たちで見出しをつけた掲示物を作る活動をした。
- ・専科教室（音楽・理科・算数）の廊下には、それぞれの分野に関わった記事を張り出すことにした。専科の先生方の協力も大きな力となった。

<具体例：算数教室N I Eコーナー>

数字に関わる記事を掲示することにした。

B4紙、上の方に日付と数字「60億人」と書いておく。わかった児童が答えを空いている欄に書き込む。

翌日、正解を示す記事を掲示する。「地球の仲間、僕で60億人（信毎）」

このような掲示物を並べてはっていくと、時事・スポーツ・経済などのいろいろな分野の記事が揃うことになった。児童は、多方面の記事に接することになる。

また、新聞に出てくる数字に関心を持つ児童が出てきた。取り付きやすい数字を窓口にして、新聞記事を読ませることも有効であろう。

13三振 9/16日付

10/13日付



松坂大輔 五輪へ前進

60億人



地球の仲間
僕で60億人

③新聞スクラップ活動

- ・学習活動の一環として、個人で興味・関心を持った記事あるいはテーマについて継続的に新聞スクラップを行なった。ある程度の区切りがつきそうなところで、記録をまとめて、発表する形をとった。この際の扱い方については、実践例を次項にまとめてあるので、参照していただきたい。

(2)新聞の活用を目指した学習の設定

実践例「学校裁量の時間（玉川の時間）・国語 6年」

①単元名「卒業研究」

- ②単元の内容：各自が興味を持ったこと、好きなものをテーマに、新聞や本、インターネットなどを使って調べ、論文としてまとめる。

③授業の様子

- (1)本時のねらいテーマを決めて調べ始めた自分の研究テーマ調査方法の一つとしての新聞情報の利用の良さを考え、最新の情報を新聞から取り入れて研究する方法を経験することを通して、自分なりの新聞利用方法を考え、実践化していく。

(2)本時の位置

20時間扱いの第6時（現在まで「玉川の時間」2、国語3）

資料1 現在までの経過		(NIE) 新聞と過ごす毎日 社会とふれる 新聞の情報から考える私たちのくらしや世界
玉川の時間：「一人一研究」の継続で「卒業研究」をすすめる		
今年の研究をどうしよう？	図書館オリエンテーション 調べ学習のやり方を学ぶ。 調べ学習コンクール作品	
こんなふうに調べるんだ	おもしろいテーマだ。 こんなことでやってみたい。 できそうだ。	
わかった		
やってみたい		

夏休みだけでなくやってみよう。	
これを、卒業研究（卒業論文）にしよう。	毎週1回 レポート
大テーマを決めよう。 中テーマをきめてやっしていこう。 図書館の本で、調べてみよう。 新聞などの情報も集めて、利用しよう。 インターネット情報も利用したい。	→廊下に掲示
(今後の計画)	
いまのところ、こんなことがわかっているよ。	
中間発表会 調べ学習コンクール	
卒業論文をまとめよう。	
卒業発表会	

(3)授業の概要（7月1日：6年3部教室にて・授業者 伊藤恵子教諭）

○研究の調べ方について考えよう。

「本で調べる」「新聞を使う」「インターネットを使う」「知っていそうな人に聞く」などの、いろいろな調べ方が出てきた。そこで、この時間は今まで個人でストックしてきた新聞を使っていくことにした。

○新聞を使って、調査メモを書いてみよう。自分の研究テーマに関係した新聞記事をもとに、調査メモを作って今後の研究資料とした。

（参考：各自のテーマ）ねこの生態、サッカーの技、菓子、諏訪地方の動物トキの誕生から成長の様子、河にすむ魚、など。

○新聞から調べてみての感想とこれからの利用方法を考えよう。

「本と比べてみて、新聞はどうですか。」と比較させると、

- ・いろいろなニュースがたくさん載っているから、見つかることがある。
→でも、記事が多いから見つけにくい。
- ・いつも新しい情報がある。本ではそうはいかない。
- ・本のほうが、場合によっては詳しく載っていると思う。
- ・新聞は、書いてあることが少し難しいことがある。

○これから工夫できることはありますか。

- ・新聞から記事を一人で見つけるのはたいへんだ。
→協力ボックスをつくろう。（全員のテーマを知っておいて、それに関係する記事を見つけたら、切り抜いて個人の箱に入れておいてあげよう。）

(4)授業後の子ども達の様子

児童の発案である「協力ボックス」は、常に記事の提供がされていた。新聞を目的を持って読むことにつながり、新聞閲覧コーナーには以前より多くの児童が立ち寄っていた。

新聞の情報の新しさ・写真による分かり易さなどに新聞の利用価値を見つけながら、図書館の本を読んで言葉については深めたり、インターネットを利用して専門的なサ

イトにいてみたり、と、子ども達はいろいろな情報に出会いながら、必要に応じて取り入れて、自分の資料としていく姿を身につけていった。そして、何よりもこの活動を通して調べることの楽しさを実感したことが大きな成果であった。

また、資料の文章を自分の言葉に置き換える作業によって、作文の力も身につけてきた。

4. 実践の感想と今後の課題

2年間の実践期間中、毎日4～8紙の新聞が提供され購読させていただいたことは、子ども達にたいへん貴重な経験となった。「新聞を知る」という意味では、新聞社によって同じ事象でも違った取り上げ方をしていることがわかり、1面に持ってくる記事が違っていることがわかり、また数社が同じであると子どもたちは「すごい事件なんだな」と感じていた。情報を伝える側の意図があることが感じられたことは、今後の情報選択能力を養うことにつながったことだろう。

「新聞に親しむ」という点では、Y生が「最近、探したいニュースがどこの面にあるのかが、わかってきました。」あるいは、K生が「テレビでやっていたニュースを新聞でも読むようになったんだ。お父さんやおじいちゃんと一緒に毎日読んでいるよ。」と話しているように、新聞を読むことが日常となっている姿が見られるようになってきた。

また、今年は「新聞の活用」という点でも、卒業研究というテーマを持った子ども達にNIE活動を取り入れることによって、主体的に記事を取り入れて研究を進め、まとめていこうとする姿が見られた。

2年間の実践の積み重ねで、一応の成果を上げられたと考えている。

「総合的な学習の時間」が2002年度から導入されるが、NIEはその中でも大切な役割を担うことが考えられる。

問題解決的な学習では、体験活動とともに必要な情報を得ることが学習を進めていく上で欠かすことができない。新聞は情報の宝庫であり「日刊の総合雑誌」といわれるほどである。これらの情報の中から、自分にとって本当に必要なことはどれかを見極めて、なおかつ自分の中に取り入れて整理し、自分なりの肉付けをして相手に伝えることは、NIE活動により育っていく面が多分あると考えている。

子どもの主体性を大切にされた教育が進められているこの時期に、NIE実践校の指定を受けて研究を深めさせていただいたことに対しまして、この紙面をお借りしてNIE推進協議会へ厚く御礼を申し上げます。

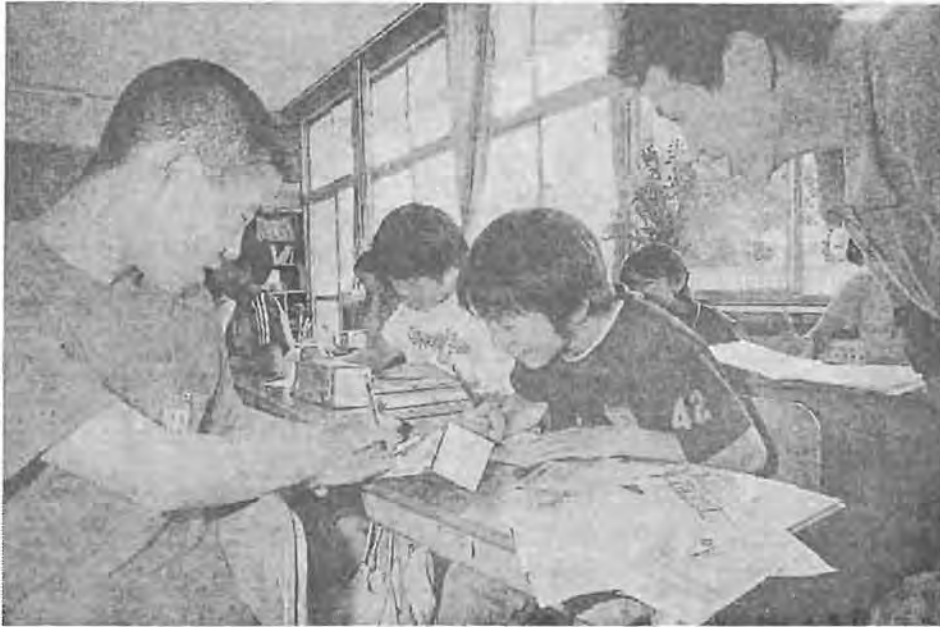
未来に向けて

「今日は新聞で調べてみました」。茅野市の玉川小学校六年三組(三十九人)。学校裁量の「玉川の時間」で、一人ひとりが研究テーマを決めて知識を深めている。今年春から、図書館で本を読んだり、インターネットで探したり、中でも貴重な情報源は、毎日家庭に届く新聞だ。コンピュータ時代に生まれ、多様化するメディア社会を担う子どもたち、彼らの二十一世紀に向けても、新聞は欠かせないお茶の間のメディアとなっている。

「本と比べて新聞の 정보가いいのは、七月一日の玉川の時間。担任の伊藤恵子先生が導く。」「えっ、ね、いっちなニュースがたぶん載ってない。」「いっつも新しく情報がある。」「野球のニュースが大好き。」「元気に答え返してやる」。

茅野市玉川小6年3組の取り組み

研究テーマ記事で学習



「本は詳しいけど、新聞はそうじゃない」。書いてあるとちがうところは、それぞれテーマに関連する新聞記事を切り抜く。

玉川の時間は週二時間。こゝろで生活、クラシック音楽、野球、サッカー、料理、昆虫。森でトランプの葉っぱを採ら...

山平明日香さんは森の動植物を調べている。「坂山市の「最近探したニュースの面...

「ほいニュースはあるかな」。自分の研究テーマに関連した新聞のニュースを紙面から探す茅野市玉川小の6年生たち

が分かるようになってきました。「テレビであつたニュースを、新聞でも読むようになった。新聞でも読むようになった。お父さんお母さんおじいさんおばあさんお友達と毎日読んでいますと嬉しそうに話している。」「でも(白米の)新ガイドラインが、よく分からなくて難しい。」「六年三組以外でも、社会や国語の時間に新聞記事を使った。心に読んだニュースをクラスで紹介するといった勉強を続けている。」

「世の中は、おもちゃ、メディアのたくさんある情報であふれている。そこから、必要な情報を取り出す力を養うために、新聞は大きな役割を果たしている」と新聞の活用を担当する並林正世先生、そんな新聞を、どんな天気でも配してもらえる仕組みはないかと考えます。



卒業論文の内容を発表する児童

卒業論文が完成

茅野市玉川小6年3部

調べる楽しさを実感

茅野市玉川小学校の六年三組(伊藤恵子教師、三十九人)が、四月から取り組んでいた卒業論文が完成した。各自が興味を持った、好きなものをテーマに新聞や本などを使って調べ、レポート用紙十枚以上にまとめた。

今春、図書館を利用した多岐にわたる運動を取り入れた「子」というテーマの探究活動。子供たちは自分が必要とする資料を集め、新聞や本などを利用して調べた。探究活動の成果を発表する。探究活動は、子供たちが興味を持ったことを調べ、学びを深め、自分から発信する。探究活動は、子供たちが興味を持ったことを調べ、学びを深め、自分から発信する。

論文の指導は、各テーマごとに自分から考えた、伊藤教師は、活動を通して調べたこと、学びを実感した、子供たちが興味を持ったことを調べ、学びを深め、自分から発信する。探究活動は、子供たちが興味を持ったことを調べ、学びを深め、自分から発信する。